

令和6年度「男女共同参画推進フォーラム」派遣研修 受講報告書

令和6年12月11日

苫小牧市長 様

氏名 中田 知穂

派遣研修を受講した結果は、下記のとおりです。

記

- 1 期 間 令和6年11月30日(土)
- 2 主催・会場 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)
- 3 参考資料等 添付あり ・ 添付なし

4 全体感想

全国から集まった様々な活動をされている方と交流する事が出来て、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。特に午後のシンポジウムでは、3名の登壇者のうち2名が包括的性教育の必要性を話されていて、包括的性教育を伝える活動をしている私にとっては、たくさんの刺激や学びを得る時間となりました。活動を始めるきっかけは皆さん違いましたが、幼少期の経験が活動の原動力となられていたようで、幼いながらに性差別を受けていると感じていたことがよくわかるお話がありました。ジェンダーカフェについても知ることが出来、日常のモヤモヤすることを話す場がある事が大事で、話すことで、普通だと思っていたことが普通ではないと気付くことが出来たり、モヤモヤすると感じる背景にどんなことがあるのかを深堀出来る機会となるようで、面白い取り組みだと思いました。

この研修での出会いと学びを今後の活動に活かしていきたいと思います。

貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。

※裏面に続きます。



講演 「女子差別撤廃条約から見る日本のジェンダー平等の今」 10:30~12:00

講師：浅倉 むつ子（早稲田大学名誉教授）

【内容・所感】

「女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」について、ご講演いただきました。

189か国ある中で、日本は72番目に批准した国であることや、条約に批准したにもかかわらず選択議定書には批准しておらず、そこには様々な課題がある事などをご説明いただきました。

女子差別撤廃条約実現アクションの活動についても教えていただき、様々な勉強会が開かれていることや地方議会を巻き込んで意見書の採択を進める動きがある事について学びました。特に印象に残ったことは夫婦同一氏を強制している国は世界中で日本のみという事です。私自身、大学でジェンダーについて学んだ事から自分の姓を選択し、パートナーが私の姓を名乗る結婚をしているので、社会に作られた「当たり前」はいつか変えていけるものだと感じました。

シンポジウム 「日本の男女共同参画、これまでとこれから」 13:30~15:30

第一部 講師：大沢 真理（東京大学名誉教授）

第二部 登壇者：U\_30世代の皆さん3名

【内容・所感】

シンポジウムでは、U-30の3名が登壇されそれぞれの活動についてお話しいただきました。

「学校教育を今の社会に見合ったものに変えたい」「ジェンダーカフェで日頃感じるモヤモヤを話したい」「生理の貧困対策をしたい」という活動をする3名のうち2名が包括的性教育の必要性を訴えられていました。苫小牧市で包括的性教育を伝える活動をしているので、やはり包括的性教育は人権ベースで豊かな人生を送るための学びであり、男女平等参画社会の実現に必要な事だと確信することが出来ました。また、U-30の皆さんが、幼い頃に受けた差別的経験について話して下さり、女性だからという理由で参加の機会を奪われたり、男性より控えめな活動を促されたりしていて、その事が今の活動に結びついているようで、共感できる事が多かったです。

令和6年度 男女共同参画推進フォーラム 参考資料

ヌエックのガイドツアーでは図書館で都道府県別に展示された広報誌の中から苫小牧市のふり〜むを発見することが出来ました。



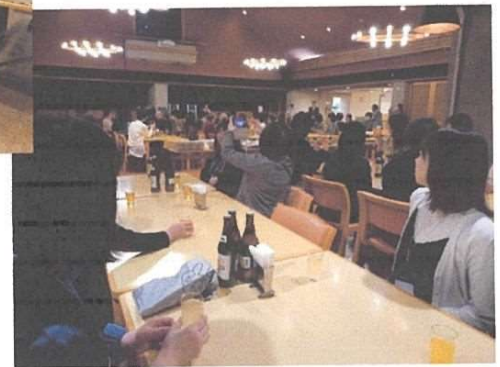
トイレの標識は、男女に分けられており一般的なシルエットが採用されていましたが、青と赤ではなくどちらも深い緑色でした。



お昼休憩は、さんかくの広場へ行き、男女共同参画の木に感想を書きました。ボランティアの方が作成してくださったというしおりをいただきました。



夕食は情報交換会を兼ねて沢山の方と交流を深めることが出来ました。道内からの参加者も多かったです。ヌエックボランティアの方による劇を鑑賞しました。



引率の市職員さんと参加者の皆さんで集合写真を撮りました。

